―Baroque white―

逢坂 レイラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
―Ｂａｒｏｑｕｅ　ｗｈｉｔｅ―

【Ｎコード】
Ｎ１３９６Ｚ

【作者名】
逢坂　レイラ

【あらすじ】
【人喰い】――
夜な夜な人々が襲われる……
母が喰われたあの夜。
復讐を誓うルース。
“やりたいこと”をやるジーマ。
“悪魔”を連れて目指すは

希望の“白”か、絶望の“赤”か――

プロローグ

暗闇に沈む時間帯――夜。
三日月は黒い雲に覆い隠され姿は見えない。今にも雨が降りそうな雰囲気だ。遠くでは雷鳴の音が聞こえてくる。
それほど家は多くないがここは住宅地。もっと明るくてもおかしくはないはずだが……どの家も電気を消し、カーテンが閉めてある。
辺りを照らすのは壊れかけた街灯のみだ。
弱く冷たい風が木の葉を騒がせる。その木の横から――
「おかしいなぁ」
ひょっこりと小さな少女が顔をだした。
困ったように眉間にしわを寄せながら木の陰からよたよたと現れる。
本当にまだ小さい子供だ。長く伸ばした黒髪が風になびいている。
それは街灯に照らされ黒いヴェルヴェットのようにつやつやと輝いた。
「蒼い蝶々、こっちに飛んできたと思ったんだけどなー！」
顎に指をあてて首を傾げる。再び大股で歩き、止まっては辺りを見回し首を傾げる。
「ルース、ルース！！」
ルースと呼ばれた子供は息を呑んだ。
あれだけママに「夜には絶対に外に出るな」と言い聞かされてきたのに。
……怒られる！
ルースは咄嗟にしゃがみ頭をかかえ、母親に背中を向けながら、
「ママ、ごめんなさい！　どうしてもお外に行きたくて、それで、それでっ」
「ルース！　よかった！　無事だったのね！」
母と呼ぶには若すぎる年齢の少女。明るい橙の髪の毛はルースとは全く似ていない。瞳も綺麗な緑色をしていて、真っ黒な瞳のルース

とは似ても似つかない。
母親は全く似ていない自分の子供に駆け寄るとその小さな背中をぎゅっと抱きしめた。そして直ぐにルースの肩を掴んで自分のほうへと向かせると、再び強く抱きしめた。
「ママ、怒ってないの？」
「怒ってるよ、すっごぐ！」
そういうと母親はルースに頬ずりをした。「くすぐったいよ～」という声に困ったように笑いながら頬を離した。
そしてルースの手を握り立ち上がると、
「夜は【人喰い】っていうすっごく怖い人たちがでるって言ったでしょ？」
「でも、一回も会わなかったよ」
「そういう問題じゃなくてね」

「そう、そういう問題じゃないね」

――第三者の声
母親の表情が強張る。
不意に雷鳴が轟いた。
耳を塞ぎたくなるような轟音、その白い閃光に黒い影が映し出された。
ジジッ、と短い音を立てて街灯が消える。
「人喰い」
「正解」
母と人喰いの短いやり取り。幼いながらルースは自分は大変な過ちを犯してしまったことに気付いた。
雷鳴に映し出された人喰いは黒いローブを深く被っていて顔は全く見えない。しかし声から女だということが分かる。
しかしルースにとってそんなことはどうでもよかった。人喰いの右手に握られている身長を超える黒い鎌。

あれほど恐ろしいものをルースは見たことがなかった。
鈍く光るそれは乾いた血がべっとりとこびり付いている。
「わざわざ今晩の飯を取りに家に入らなくてものこのこと現れてくれるとは。それにこの田舎には騎士はいないのか？　どうぞ好きな時に喰ってくださいと言っているようなもんじゃないか」
「いいえ、騎士はちゃんといます」
「へぇ、ちゃんと助けに来てくれるのかい？」
「……」
母親はキッと人喰いを睨んだ。それを見てそいつは馬鹿にしたように笑った。
「これほど騎士が少ないとなると、食材の質が疑われる。相当悪いのだろう。騎士が見捨てるほどにな」
「いいかい、ルース」
母親は人喰いの言葉を無視してルースに言った。
「ママがあいつぶっとばすから、そのうちに家に逃げるんだよ」
その言葉にルースは戸惑いの表情を浮かべた。母親を置いていくなんて、できない。
「……子供？」
人喰いがようやくルースの存在に気付いた。そして沈黙のあと母親に向かって、
「それはお前の子か？」
母親にしては若すぎることに驚いているのだろうか。表情は見えないが声が驚いている。
そんな質問をされたが、母親は無視して腰から短剣を抜いた。
「ルース、さっさと逃げるんだよ」
ルースは泣きそうになりながら母親を見上げた。
鎌と短剣を見比べ、母親のズボンをぎゅっと握って首を横に振る。
「ママなら大丈夫だから」
ママなら大丈夫なのだろうか

ママなら……

ママ……

ごめんなさい

ごめんなさい、ママ……

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1396z/

―Baroque white―

2011年12月4日23時48分発行